

感じる組織が少なく、その分物の形や動きを感じる組織が多くなっています。おそらくフクロウ達は、赤外線フィルムのように、モノクロの世界を見ているのでしょう。

最後に発達しているのは耳です。小さな音でも聞く力があるので、葉っぱの上を歩く小動物も見つけることができるのです。それはフクロウの耳は少し上下にずれています。ずれていることで、どこから音が聞こえるかを正しく知ることができるのだそうです。

フクロウは、頭蓋骨の大きさに比べて、大変大きな、発達した耳を持っています。獲物を見つけるのに、目よりも耳を役立てている、とさえ言われます。また、正面から見て、左右の耳の高さが違うのも特徴です。音源の位置を立体的に捉えるのに都合がよいのです。

さらに、短くて硬い羽根が、顔面を縁取るように生えています。これが、パラボラアンテナのように集音装置の役割を果たしていると言われています。

一般的に、顔盤が発達したフクロウほど、視覚より聴覚で獲物を認識すると言われています。積もった雪の下のネズミを捕らえるカラフトフクロウ、完全な暗闇でもネズミを捕らえるメンフクロウなどは、独特の顔盤が特徴です。

フクロウはネズミを捕まえて餌にします。フクロウの耳が非常に敏感に出来ていて、僅かな音でも聞き分けることができます。

それだけではありません。フクロウの耳は僅かに非対称についています。頭にあるフクロウの一つの耳はもう一つの耳よりもほんの少し上についているのです！このずれのおかげで、フクロウの獲物の発生する音が、フクロウの左右の耳にはほんの少しだけずれて届くのです。フクロウは、この微妙なずれを聞き分けて、脳によって読みとって、獲物がどこにいるかを立体的に聞き分けているのです！こうして、フクロウは、耳に耳小骨が1つしかないにもかかわらず、餌がどこにあるかその方向と位置を正確に聞き分けることが出来る仕組みになっています。

このように、他の鳥と体の造りが違うフクロウだからこそ、夜に活動することができるのです。